

同伴可能なフレンチ店… 横には愛しきプードル♡



2

月某日、赤坂の瀟洒なビストロ「カンテイーヌアリ・バブ」に、

作家の田中康夫さんが愛犬ロッタちゃんとともにディナーを楽しむ姿があった。ロッタちゃんは田中さんの小説『33年後のなんとなく、クリスタル』にも登場し、田中ファンにはよく知られた人気者、6歳の女の子のトイ・プードル。ロッタちゃんがトリミングに出かけた帰りには、よくこの店を訪れるという。犬を同伴できる飲食店というと一部のカフェのテラス席などが思いつくが「アリ・バブ」では、気取らず粋な本格的フレンチがいただけるという。

「愛犬家にとって犬は家族であり、高齢者には得がたい癒やしを与えてくれるパートナーです。欧州では犬とともにある暮らしが当たり前で、レストランにも同行できるのが普通。『ミシュランガイド』の欧州版には愛犬の入館を認めないホテルとレストランがマージングされているくらいです。でも日本はまだまだ。だからこちらのようなお店が貴重なのです。災害時の避難所にペットを同伴できるようにするシステムづくりも僕の関心事なんですよ」

そう田中さんは語る。レストランでの愛犬との食事は、犬と人間が触れ合える空間をめぐる哲学とも結びついているようだ。

写真＝高橋勝規 文＝向井徹